

投稿の手引き

1. 原稿はワードプロセッサを原則とし、1頁あたり20行、1行あたり25字とし、右側に6cm程度の余白をとり、行間を紙面全体にわたるように十分にあげ、A4版用紙に印字する。手書きの場合は、A4版400字詰原稿用紙を用いる。アブストラクト等の英文はワードプロセッサまたはタイプライタを用い、ダブルスペースで印字する。
2. 原稿には、表題として第1頁に、和文題目、漢字著者名、英文題目、ローマ字（略さず）著者名をこの順に書き、脚注として所属官署を和文と英文で書く、つづいて、英文アブストラクト、同和訳、和文本文、文献、図・表・写真の説明、同和訳をこの順に項目毎に用紙を別にして記す。ただし、報文、雑報は英文の所属官署とアブストラクトは省き、図表等の説明は和文のみでよい。文献はそれが無いとき省くことができる。
3. 英文アブストラクトは、目的、仮定、方法、結論等を明確に書き、本文の数式、図表等は引用しない。
4. 本文
 - 4.1 節の切れ目は1行あける。
 - 4.2 節に見出しはゴチックとし、各節の本文は新しい行から1文字あけて書き始める。文の切れ目で行を変えるときも1文字あける。
 - 4.3 句読点には、.（ピリオド）、,（コンマ）を使用し、。、は使用しない。
 - 4.4 人名、地名の読みにくいものには振り仮名を付ける。
 - 4.5 まぎれやすいアラビア数字、ギリシャ文字、ローマ文字、ベクトル記号等には、片仮名でフリガナ（朱書）を付け、大文字、小文字の別を示す。添え字は判別できるようにはっきり書くか、校正記号（朱書）を付ける。
 - 4.6 数式、特に本文中の数式はなるべく行間が1行以上にならないようにする。
 - 4.7 単位は原則として国際単位系（SI）を使用する。
 - 4.8 暦年は原則として西暦を用いる。また、人名の敬称は原則として省略する。
5. 図・表・写真
 - 5.1 図等の表題・説明は、論文の場合は原則として英文で、その他の場合は和文で書く。図等に直接書かずに別紙に番号順にまとめて列記する。英文の場合は和訳を添付する。図表中の文字、記号はもれなく説明する。また、必要な単位は必ずつける。
 - 5.2 図等の挿入個所を本文の右スペースに朱書する。
 - 5.3 図等には、第1図、Fig1、表1、Table1のように通し番号を付け、隅に著者名を記しておく。
 - 5.4 製版後は図の修正は不可能なので、注意すること。刷り上がり寸法または縮率を記入する。ただし、縮率は編集の都合により変えることがある。
6. 参考文献
参考文献は、本文の末尾に原則として次の形式にしたがって列記する。並べる順序は和文を先にして50音順、続いて欧文をアルファベット順に並べる。
雑誌 著者名（西暦年）：表題、雑誌名、巻数、号数（原則として省略）、ページーページ
単行本 著者名（西暦年）：書名、第何版、発行所、総ページ数（または引用ページ）。
（例）
安藤邦彦（1992）：表面現象から見た近年の伊豆大島の火山活動の期間とその特徴、*験震時報*, **55**, 139-156.
宇津徳治（1985）：地震学、第2版、共立出版、310pp.
Hull, A. G. and C. Nicholson (1992) : Seismotectonics of the Northern Elsinore Faults Zone, Southern California, *Bull. Seism. Soc. Am.*, **82**, 800-818

平成16年7月30日発行

編集兼発行人

気 象 庁

東京都千代田区大手町1丁目3-4

印 刷 所

株式会社リプログラフィックセンター

東京都千代田区神田須田町2-15-9 加藤ビル

Quarterly Journal of Seismology

Vol. 68 Nos. 1~2 June 2004

Contents

PAPERS

- An extension for the period from 1923 to 1925 and improvement for the period after 1926 of the earthquake catalog of Japan
Nobuo HAMADA, Kazumitsu YOSHIKAWA,
 Saya KONDO, Noriko KAMAYA, Tamotsu AKETAGAWA,
 Ritsuko MATSU'URA and Yasunori SUZUKI 1

REPORTS

- The support software for estimation of interplate Slip
Koji NAKAMURA and Jun TAKENAKA 25
- Earthquakes felt both in Japan and Korea
Yuzo ISHIKAWA and Kyo-Sung Chu 37

NEWS

- Introduction of Volcanic Observations and Information Center System (VOIS)
Yuji USUI 47
- Introduction to new EPOS (Earthquake Phenomena Observation System)
Tomoaki OZAKI 57
- The Moment Magnitude estimation of the EPOS3.
The focal mechanism group of the Earthquake Prediction
 Information Division and the offline group of the EPOS team. 77

Published

by

The Japan Meteorological Agency
 c/o Seismological and Volcanological Department, JMA
 1-3-4 Otemachi, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8122, JAPAN